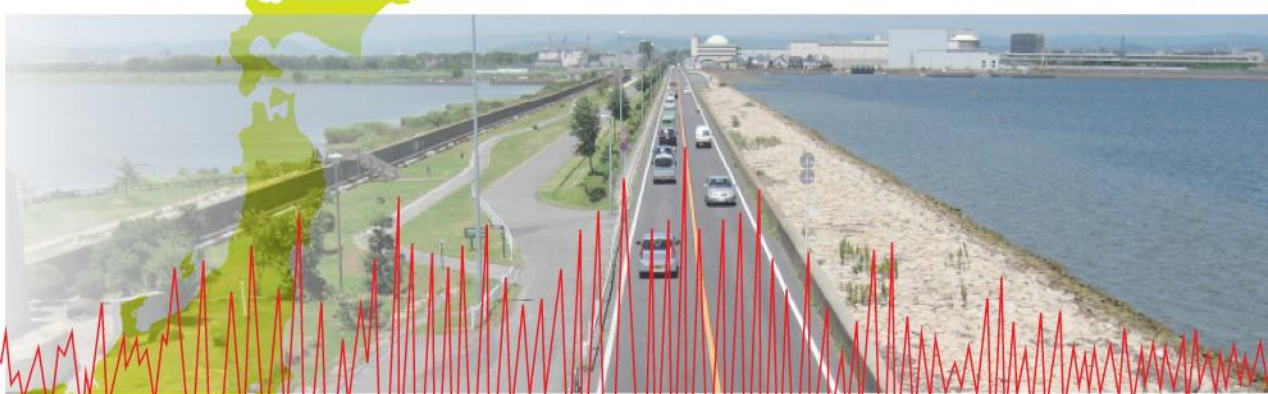


こ じ ま わ ん え ん がん
国営総合農地防災事業「児島湾沿岸地区」
こ じ ま わ ん し め き り て い ぼう
児島湾締切堤防の

耐 震 化 対 策



農林水産省 中国四国農政局
岡山南土地改良建設事業所

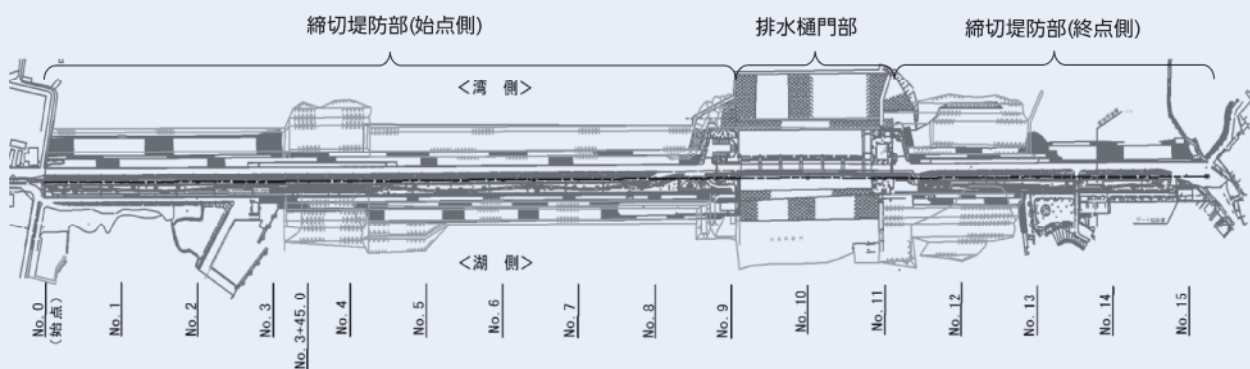
地域の概要

児島湾沿岸地区は、岡山県の南部に位置する岡山市、玉野市、倉敷市にまたがる4,320haの水田地帯です。

児島湾締切堤防は、干拓地の農業用水の確保、排水機能の確保及び塩害の防止を目的として、国営かんがい排水事業(昭和25年度～昭和36年度)により造成され、その後、直轄海岸保全事業(昭和55年度～平成13年度)により改修された地域の重要な基幹施設です。



締切堤防 全体平面図



地域農業の概要

干拓地には岡山市の農業の中心をなす穀倉地帯が形成されており、近年では、水稻を中心として二条大麦のほか、施設なす、玉ねぎ、レタス、れんこんといった多様な高収益作物の栽培が展開されています。

特に「備南の干両ナス」は、岡山ブランドとして京浜、京阪の市場に出荷し、京都方面では漬物用として重宝され、全国で高評価を受けるなど、本地区は山陽地方を代表する大規模優良農業地帯として大きな役割を果たしています。



二条大麦



なす



レタス

岡山県内に被害を及ぼす地震

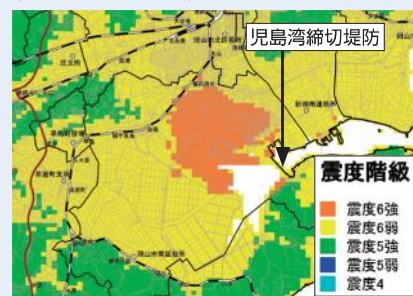
- 岡山県内に被害を及ぼす地震としては、主に「直下型地震」と「南海トラフ沿いで発生する巨大地震（以下南海トラフ地震）」があります。
- このうち、児島湖湾干拓堤防に被害をもたらす恐れが高いのは、南海トラフ地震です。南海トラフ地震はおよそ100～150年の間隔で発生しており、近年では「昭和南海地震（1946年）」がこれにあたります。
- 南海トラフ地震は、今後30年以内にマグニチュード8～9クラス規模の地震が70%～80%程度の確率で発生すると想定されています。

（地震調査研究推進本部地震調査委員会の長期評価による（平成31年1月現在））

日本付近のプレートの模式図
（気象庁HP）

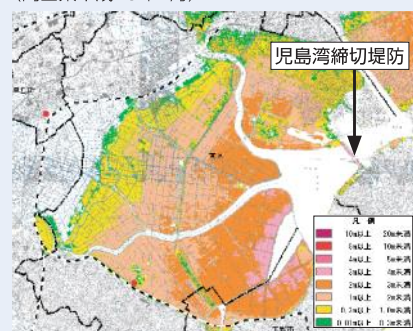


南海トラフ地震による**想定震度**
（岡山県平成25年7月）



※南海トラフ地震における堤防付近の最大震度は6強

南海トラフ地震による**津波浸水予測**
（岡山県平成25年7月）



※堤防が決壊したと想定した場合の予測



昭和南海地震で全壊した家屋
（写真提供：岡山地方気象台）

過去の大規模地震発生域と頻度

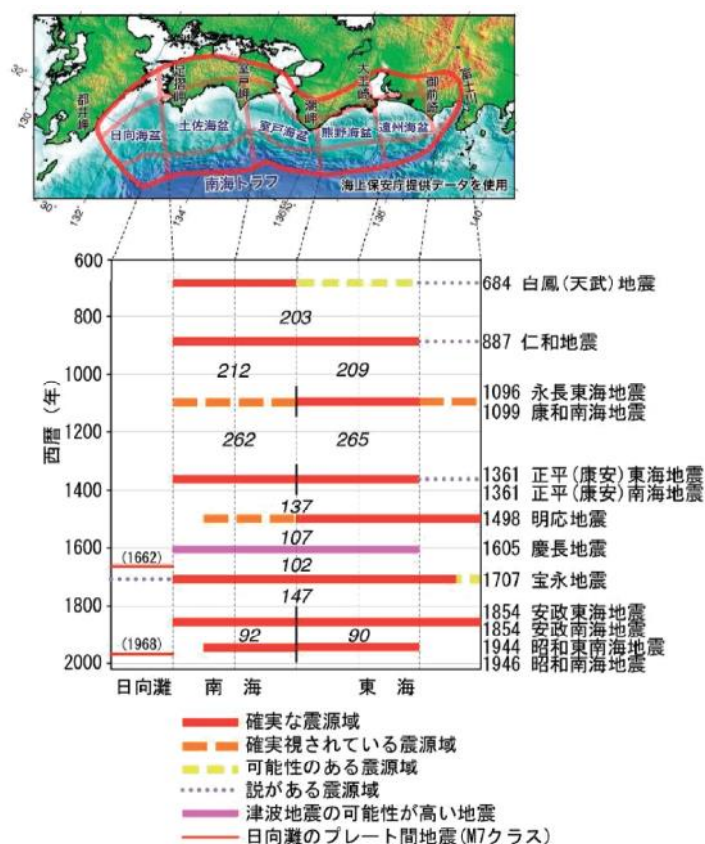


図 南海トラフで過去に起きた大地震の震源域の時空間分布（石橋，2002 をもとに編集）
 ・白鳳（天武）地震（684 年）以降の地震を示している。
 ・図中イタリック体で表した数字は、地震の発生間隔（年）を示す。
 ・震源域は地形の境界（都井岬、足摺岬、室戸岬、潮岬、大王崎、御前崎、富士川）で東西方向に区切っている。
 ・黒の縦棒は、南海と東海の地震が時間差（数年以内）をおいて発生したことを示す。

（平成31年1月中央防災会議防災対策実行会議（内閣府HPより））